

テーマ：北方領土（実践校）

オホーツク管内 北見市立豊地小学校

本実践のポイント（概要）

- ・北海道に対する愛着や誇りを育むため、北方領土の自然や歴史等について調べるとともに、北方領土の語り部として元島民2世の方を外部講師に招聘した講話等を通して、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

北方領土の地理や歴史について調べる活動を通して、自然環境や、水産資源、文化、外交等について理解するとともに、領土問題を身近な問題として捉え、北方領土に対するこれからの願いを具体的に考え、領土問題に関心をもって発言したり行動したりすることができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

「実際に島に住んでいた人に話を聞きたい。」「北方領土のよさを知りたい。」という昨年度の学習の振り返りから、北方領土の自然環境や水産資源、文化、外交等についての探究課題を設定しました。



【語り部の講話の様子】

(2) 情報の収集

元島民2世の語り部を講師として招き、択捉島の様子や戦後の混乱期等の話を聞き、質問することを通して、様々な情報を収集しました。

また、語り部講師の「択捉島はユートピアだった。」という話から、北方領土の特色に注目し、一人一人が詳しく調べたいことについて、インターネットや書籍等を活用して情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理するとともに、共同編集機能により、児童同士で内容についての意見交換やアドバイスを行うことにより、北方領土の特色について理解を深めました。



【保護者に発表の様子】

(4) まとめ・表現

学習した内容について、1人1台端末を活用してスライド資料にまとめ、保護者に発表することを通して、北方領土の問題を身近な問題として捉え、北方領土に対するこれからの願いをもつことができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、学習の振り返りにおいて、1人1台端末を活用したアンケートを実施するなど、解決の方向性を見通す場面を位置付けました。
- ・課題について理解を深めたり、新たな課題解決の視点を得たりできるよう、交流場면을意図的に設け児童が多様な意見に触れることができました。

実践の振り返り

- ・昨年度の学習を振り返り、児童自身が設定した課題について、探究的に学習を進めたことにより、北方領土に対する興味・関心を高めるとともに、北海道に対する愛着を育むことができました。
- ・総合的な学習の時間を中心に、社会科等の学習の成果や多様な資料を共有フォルダに整理し、適宜、児童が資料を確認できるようにすることにより、教科等横断的な学習をより一層深めることが期待できます。